

「平常時」の自主防災活動

自主防災組織とは、自治会をベースとして「自分たちの地域を自分たちで守る」ために活動する組織のことで。

阪神・淡路大震災では、救助された方の多くは、災害発生直後における近隣住民の救助・救護活動によるものだったといわれています。

いざというときに備えて、日ごろから顔見知りになっておくことが重要であり、災害発生時に、地域住民がともに助け合い、被害が最小限になるよう、自治会へ加入し、自主防災組織の活動に協力しましょう。



「平常時」の主な自主防災活動

平常時は災害に備えて防災訓練の実施などに取り組みましょう。

また、災害時に円滑な避難所運営が行えるよう、行政や近隣住民などと連携し、定期的に避難所運営に関する協議や訓練を実施しましょう。

■防災訓練の実施

初期消火訓練、安否確認訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練、情報収集・伝達訓練、避難所開設・運営訓練、給食（炊き出し）訓練など



■防災知識の普及

防災マップの作成、防災講習会、防災映画上映会の開催などでの防災イベントの実施など



■防災巡視・防災点検

各家庭の防災用品の点検 防災倉庫の備品や消防水利の確認、燃えやすい物の放置状況、ブロック塀や石垣、看板、自動販売機など、倒れやすい物の点検など



「災害時」の自主防災活動

災害時は被害を最小限に食い止めるための救出活動などに参加しましょう。また、施設管理者や市職員（避難所担当職員）と連携して避難所の開設や運営を行いましょう。

■負傷者などの救出活動および医療救護活動



■出火防止および初期消火活動



■市からの情報収集および住民への情報伝達活動



■避難所の開設・運営

地域住民や施設管理者、避難所担当職員による「避難所運営委員会」を組織・運営し、円滑な避難所運営を行いましょう。



■女性の参画の重要性

災害時、男性だけでは女性が必要とする配慮事項やニーズに気づかないことがあります。

自主防災組織に女性が参画して意見を述べていくことは、男女がお互いを尊重し助け合うことにつながり、地域の防災力の向上をはかるためにも重要です。

そのため、自主防災組織のリーダーや役員の方は年齢、性別等にかかわらず意見を述べ合い、助け合う環境づくりに努めましょう。

